柴田大使によるベニシャングル・グムズ州訪問

2025 年 4 月 23 日（水）、柴田大使は、UNICEF エチオピア事務所長の案内で、エチオピア西部ベニシャングル・グムズ州を訪問し、令和 4 年度補正予算 UNICEF 案件「エチオピアの危機的状況にある人々への保護、保健、栄養、水衛生（WASH）の包括的な緊急支援」の事業地を訪問し、同案件の下で建設された太陽光発電システムによる給水ステーションの視察を行いました。本視察には、ベニシャングル・グムズ州アシャドリ・ハッサン知事が同行しました。

本案件には、ベニシャングル・グムズ州バンバシ町の給水システムに太陽光発電ステムの導入を支援することが含まれており、これによりバンバシ町に居住する 3.7 万人以上の住民と 1.3 万人のオロミア州から流入した国内避難民が、持続的に安全な水を利用できるようになりました。加えて、州政府や利用者の経済的な負担となっていた汲上げポンプの稼働に必要な燃料費や電気代（約 60 万エチオピア・ブル（約 4,600 ドル）/月）を軽減することで、エチオピア政府が推奨するクリーンエネルギーの導入にも貢献しています。視察を通じ、バンバシ町他地域関係者から謝辞が述べられるなど、地域の人々に裨益し、感謝されている案件であることが確認されました。

柴田大使は、アシャドリ・ベニシャングル・グムズ州知事及び UNICEF エチオピア事務所長に本案件の実施に係る協力への謝辞を述べるとともに、日本政府は両国の約 100 年継続する友好関係に基づき、教育、保健、水・衛生等、幅広い分野で支援を実施していると述べました。

アシャドリ州知事から説明を受ける
柴田大使とカンポ UNICEF 所長

給水ステーションでテープカット

給水ステーションの太陽光発電システム

挨拶する柴田大使